

鵜戸神宮：吾平山陵

吾平山陵は鵜戸神社の境内上の山腹にあります。地元の言い伝えでは、この森林に覆われた区画は、日本の神話で初代天皇の神武天皇の父であるとされ、鵜戸神宮の祭神である鸕鷀草葺不合の埋葬地と考えられています。ここは九州にいくつかある宮内庁管轄地のひとつです。宮内庁は、皇室に関する事項を担当する政府機関です。何世紀にもわたる武士階級の統治が終わり、1868年の明治維新で天皇が復権した後、宮内庁の前身機関は日本書紀（720年に編纂された初期の日本の歴史記録）で最初に発表されたリストに基づいて、全国にある古代の墓を「天皇の墓」として特定しました。しかし、記載された墓の中には、複数の候補地が存在するものがありました。その結果、鸕鷀草葺不合をはじめとする天皇家の神話上の祖先には、正式に複数の墓が存在する場合があります。

吾平山陵は囲いで覆われ、立ち入ることはできませんが、森の端から小道をたどると、墓地を取り巻く囲いに約20分で行くことができます。特に雨が降った後は、小道を進むのが難しいことがありますので、ご注意ください。